

平和に対する考え

私はこの2日間で平和に対する考えが大きく変化した。前までは平和というものはずっと続いていくものだと思っていたが今回の広島研修を通してみると平和のために多くの人が活動していてその人達のおかげで平和が支えられているということに気づいた。だから私はこれから平和について考えを深め、平和に感謝していかなければいけないと思った。今回の経験はどれも今までふれたことのないものばかりで本当に多くのことを学んだ、この学んだことを様々な人達と考えていきたいと思った。



原爆死没者の「慰霊碑」

過去の広島を見て

弥富中学校 奥 瑠花

平和記念公園にて

一日目に行った平和記念公園には、「平和の時計塔」というものがあります。この時計塔は、時間が表示されることの他に、もう一つ決まった時間にあることが起こります。それは、毎朝八時十五分になると音楽が流れることです。八時十五分という時間は、広島に原爆が落とされた時間です。流れる音楽には、ガイドさんも覚えきれないほどの長い曲名があるそうです。私は、原爆が落ちた日のことを絶対に忘れてはいけなから、忘れないように、音楽が流れるのではないかと思いました。

被爆体験講話を聞いて

私が被爆体験講話を聞いて心に残った話は、水を求めている人に水を渡すと、気を張っていたのが安心して亡くなった人の話です。火傷をすると体内の水分が失われ脱水状態を引き起こすので、通常は飲みすぎなければ水を飲んでも構いません。しかし、原爆での被災により起こる火傷は直接生命の危機につながるものが多く、瀕死の状態でも水を飲んだ被災者は、ほっと安心し、緊張が解け、亡くなっていったのではないかとされています。この話を聞いて、私はほんとうにびっくりしました。私が水をあげる立場だったらどうするべきなのか、わかりません。でもどちらにしても亡くなってしまう人ならば、私なら水をあげて安らかに眠ってほしいと思います。

被爆ピアノの演奏会と講話を聞いて

一日目の夜、被爆ピアノの演奏会と講話を聞きました。ピアノの奏でる音色は、被爆にあったときの辛さ、悲しさや、被爆にあう前の楽しい思い出など、たくさんの思いが含まれていました。それを伝えるピアノの音も、語り手さんの話や声も、すごく心に残っています。原爆がたった一つ広島に落ちただけで、人も物も夢も希望も、全て一瞬にして壊れてしまいます。広島に行き、改めてもう二度と戦争をしてほしくないと思いました。



白血病の患者さんが折った「折り鶴」



市では、平和宣言都市の具現化として、平成23年度から市内3中学校の2年生が広島に出かけ、平和の大切さについて学んできました。これは、本市の平和教育の中心に据えられている事業です。

これから毎号、広島研修後に生徒が書いた作文を掲載していきます。将来、市を担う生徒たちが、被爆地広島で何を見て、そして何を感じたのか、その貴重な学びは、生徒たちの未来、そして市の未来につながっていきます。



平成30年度広島研修

▼ 行程

▼ 日程

11月6日(火)～7日(水)

弥富北中学校

11月7日(水)～8日(木)

十四山中学校

11月8日(木)～9日(金)

弥富中学校

1日目

J R名古屋駅
↓
J R広島駅
↓ ※観光バス
・平和記念公園
・昼食 (戦時中の食事体験)
・平和記念公園での見学・研修 ※徒歩
原爆ドーム、平和記念資料館、
平和の灯、折り鶴の献呈式など
↓ ※観光バス
・江田島青少年交流の家
入所式、オリエンテーション、
夕飯のつどいなど
・夕食
被爆ピアノの演奏会と講話

2日目

・江田島青少年交流の家
↓ ※観光バス
各校の案による研修
(平和記念公園での講話など)
↓ ※観光バス
J R広島駅
↓
J R名古屋駅

平和学習

弥富中学校 小澤 俊輔

多くの遺品が残る平和記念資料館

私は広島研修2日目に、原爆についての資料や被爆後の歴史、そして原爆によって亡くなった人々の遺品が保存されている平和記念資料館に訪れた。まず一番初めに目に飛びこんできたのは原爆投下の様子を再現したビデオだった。にぎやかなまちなみや手の凝った建物が、原爆が落ちた瞬間、荒れ地となって映しだされた。何度か上空からの映像を見たことはあったがこれまでの被害が出るものだとは思っていなかった。建物が消し飛ぶのと同時に何万という命も奪われたのだ。私は恐怖を覚えた。今、この世界にはこの原爆と同等、もしかしたらそれ以上かもしれない原爆が大量にあると、その爆弾をいつこの国が使うかわからないということ。同時に私は学んだ。平和はあったほうがいいのではなくなくてはならないものだ。

次に私が心をうたれた展示物は血のしみがついたままの服だった。見た感じでは女性服だった。いたるところに穴が空いていて血は飛びちっている、見ていて痛々しいものだった。この展示物も原爆の被害によって生まれたものだったことを考えるととても考えさせられた。もう次はこんな服が生まれないようにと思い、平和記念資料館をあとにした。